

2023

二宮町小中一貫教育

まずは施設分離型小中一貫教育が4月からスタートします

小中一貫教育による教育効果

■安心して学び続けられる

9年間の学びをつなぎ、小・中学校の教員が一体となり、より分かりやすい授業を行います。

■小学校から中学校への滑らかな接続

小学生同士、小・中学生同士の交流を深めることで進学に伴う不安を軽減させます。

【誰一人取り残されない】
学校づくりを目指します。



学び合い

教え合い

優しいまなざし

確かな成長



共に学び共に育つ

小中一貫教育の目的

将来の変化を予測することが困難な時代を前に、子どもたちには、自ら未来を切り拓いていくための資質・能力を培うことが求められています。

新しい時代を生きる子どもたちに求められる資質・能力を確実に育むために、小学校6年間、中学校3年間という枠にとらわれず、義務教育9年間のつながりを大切にした「小中一貫教育」を推進します。また、取組を進めることで、中学校に進学する際の大きな環境の変化を和らげ、新しい環境への適応につなげます。

まずは、令和5年度から施設分離型小中一貫教育を推進し、成果と課題を明らかにしながら、将来的な施設一体型の小中一貫教育校への移行について検討していきます。

二宮町の小中一貫教育

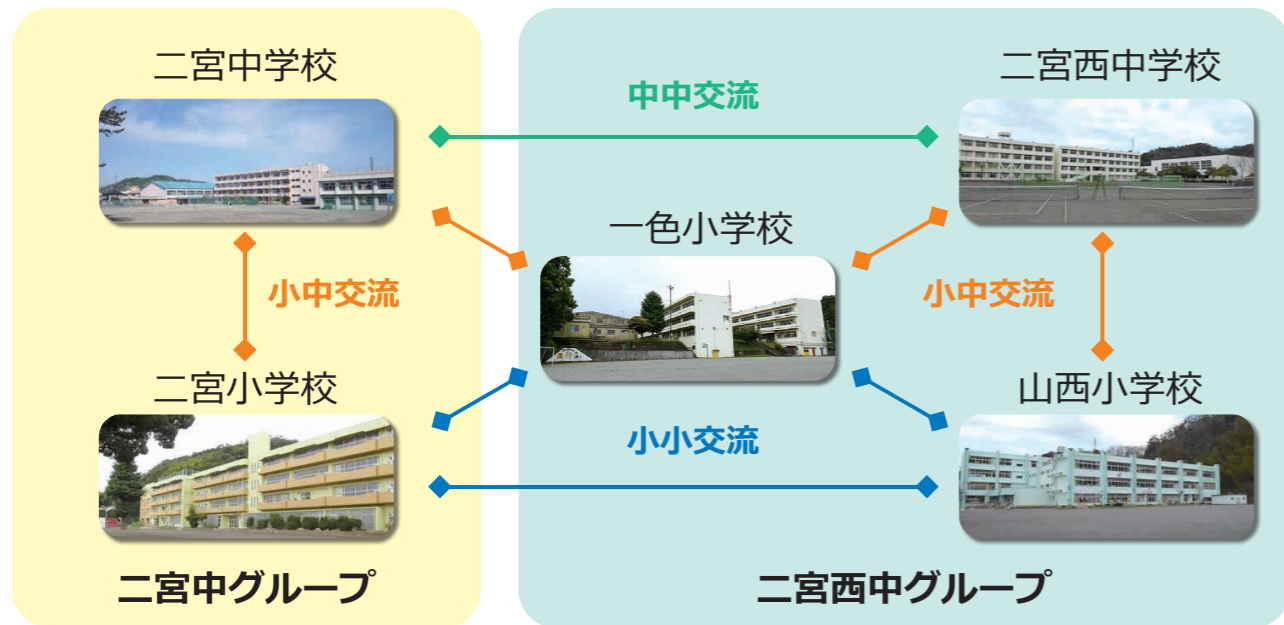
まずは施設はそのままで小中5校が1つの学園に

小中一貫教育の教育目標

『認め合い、高め合う、二宮の子』

施設分離型小中一貫教育校の構成

施設分離型小中一貫教育校「にのみや学園」



令和5年度より町内のすべての小・中学校が1つの施設分離型小中一貫教育校「にのみや学園」としてスタートすることで、9年間を見通し、共通性と一貫性をもった教育をこれまで以上に充実させていきます。学園内では、子どもたちや教職員の声をもとにして、さまざまな交流を図っていきます。

子どもたちの中学校生活に対する期待と不安

楽しみなこと

「部活動や学校行事」
「同学年のかかわり」等

心配なこと

「中学校での授業」
「上級生とのかかわり」等

小学校高学年と中学校1年生へのアンケートより（令和4年7月実施）

「にのみや学園」プロジェクト

学級づくりの土台を9年間を通してそろえます

- 主体的・対話的で深い学びを実現するために、低学年から一貫して次の取り組みを進めます。
 - ・全員が安心して過ごせる個性や多様性を尊重した受容的・共感的な学級づくり
 - ・学び合いを大切にした誰一人取り残されない学級づくり
 - ・話し合い活動を中心とした協働的な授業づくり



子どもたち同士の交流を図っていきます

- 目的に応じてオンラインや対面での交流を図ります。
 - 小学生と中学生の交流
 - ・小学校高学年の部活動体験や授業見学
 - ・中学校生徒会と小学6年生の交流
 - ・特別支援学級児童生徒の交流
 - 小学生同士の交流
 - ・中学校進学前に他の小学校の児童との交流

取組の紹介



9年間を見通したカリキュラム研究を進めます

- ・小・中学校の先生が協働的に指導法について研究したり、異校種を体験したりすることで9年間を見通したよりよい授業づくりを進めます。
- ・二宮町に愛着と誇りをもてる子どもを育てるために「二宮町」をテーマにした探究学習を進めます。
- ・これまで重点的に取り組んできた英語教育についても引き続き充実を図ります。
- ・コミュニティ・スクールのよさを生かして、地域とのつながりを大切にした教育課程の充実を図ります。

カリキュラム研究成果



個に応じたきめ細かい支援の充実を図ります

- ・個々の教育的ニーズに応じた多様な学びの場・居場所づくり・ともに学ぶ場の充実に向けて、校内支援、地域の関係機関との連携を強化するとともに、教育相談の充実を図ります。
- ・中学校の制服の見直しについて検討を始めます。



小学校と中学校のつながりを大切にして、一つの教育目標のもと小中間の滑らかな接続を図るとともに、子どもたちの9年間の学びや育ちを支えていきます。

二宮町小中一貫教育に関する Q&A



Q

校舎はどうなりますか。また学区はどうなりますか。

A

小学校、中学校の校舎をそのまま使用します。また、学区も進学先の中学校も変更はありません。

Q

入学式や卒業式、運動会等はどうなるのですか？

A

今までどおりそれぞれの小・中学校で行います。

Q

小中一貫教育のメリットは何ですか。

A

小・中学校の教員の共通理解のもと、9年間を見通した子どもたちの発達段階を踏まえた教育が行われます。よりきめ細やかな学習指導や生活指導が実現するため、子どもたちの今日的な課題の解消などの効果があります。

Q

小中一貫教育が進むと、小・中学校の施設が一つになりますか。

A

令和5年度からは、既存の学校施設を生かした施設分離型での小中一貫教育を進めていきますが、施設分離型の取組の成果や課題を踏まえたうえで、将来的に施設一体型小中一貫教育校の設置を想定しています。

Q

異なる小中一貫教育グループの中学校へ進学すると、学習状況に差が生じてしまわないですか。

A

各小・中学校で学習指導要領に準拠して授業を進めるとともに、5校で共通の教育目標のもと、小・中学校5校で共通した各教科の指導法により教育を進めます。

Q

保護者や地域はどのように関われば良いのでしょうか。

A

子どもたちの連続した学びは、学校、家庭、地域の全体で支援することが重要です。引き続き、学校行事や地域学習、ボランティア等への参加をお願いします。

Q

これまでも小・中学校が連携した教育を進めていたと思いますが、小中一貫教育との違いは何ですか。

A

これまでも中学校入学準備説明会や部活動見学など、小学校6年生と中学校を連携してつなぐという考え方をもち、小・中学校の円滑な接続を実現する取り組みを行ってきました。これからは、小・中学校が同じ課題意識を持ち、一つの教育目標のもと、義務教育9年間のつながりを大切に、子どもたちの学びや育ちを支えていきます。

Q

小・中学校が離れていると、小中一貫教育は難しいのではないのでしょうか。

A

施設一体型と比較するとできることは限られますが、子どもたちの9年間の学びや育ちを支える教育環境の充実のため、段階的にできることから取り組んでいきます。小・中学校の教職員が、子どもたちの9年間を見据えた情報交換や指導法についての研究を進めます。また、中学校に進学するまでに小学生が中学校の部活動や授業に触れ合う機会を設けるなど、施設が離れていても取り組みを工夫することで、中学校へのスムーズな進学へとつなげます。

【小中一貫教育に関する問い合わせ】

二宮町教育委員会 教育部 教育総務課 指導班 電話 0463-75-9261

令和5年（2023年）2月発行